

大崎 幼年会の歌

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

昭和2年に鶴園吉男さん作詞・上西小学校教諭三浦安信さん作曲の「杵之峯幼年会歌」が発表され、今でも杵之峯の高齢者に親しまれており、公民館には歌詞が掲示されています。

大崎でも幼年会の歌が歌い継がれているのを昨年、知りました。

きっかけ

去年、大崎のある役員さんから、「大崎に幼年会の歌があいとを知ったい？」と聞かれましたので「いやあ…初めて知ったや」と答えたら、「こんど持って来いから」とDVDを貸してもらいました。

2022（令4）年8月7日に大崎公民館下で草払い作業後の反省会の場で興が乗ってきた平原敏光さん（左）が一曲！それがこの「大崎幼年会の歌」。周りの人たちが「おおっ!？」と驚きの声をあげ、そのあとに大きな拍手の嵐。

敏光さんが歌っている動画は下のQRコードで読み取ってください。



その後

取材を続けていますと、大崎一正さん（右）に出会います。「小学4、5年の時に出来た歌やんかったかなあ。作詞作曲は上西小学校の先生やった洲崎和己先生。幼年会をすい時とか、正月の行事の時い歌うたろーなあ。また思い出してみいから。」と、取材する側にしてみれば大変心強い言葉をいただきました。

平原敏光さんによりますと、幼年会の歌の歌詞は一番だけで、歌を覚えるのはこのお二人だけだそうです。薄れゆく歴史のなかで、記録すべき出来事がまたひとつ掘り起こされました。協力してくださった平原敏光さん、大崎一正さん、ご協力ありがとうございました。上西の歴史冊子『ふるさと上西今昔～伊勢暦～』編集用の貴重な資料として保存します。

大崎幼年会の歌

湧きて流るる 八百潮の
浦に漂う 波の音
調べは強く 音高く
時満ち来たり 教えなむ
力を合わせ 意気一つ
みんなで築こう 平和な村を
おお おお 大崎 大崎幼年会

解説

※洲崎先生は昭和30年まで、上西小学校に勤務されていました。

「湧きて流るる」…種子島と大隅半島の間を流れる黒潮は流れが速く、3.5ノットだということから時速5.6km。大人が速足で歩くスピードに匹敵する。

「八百潮」…八百は数がきわめて多いこと。多くの個性をもつ潮のことだろうか。または、はるか遠くで生まれた潮を意味するのか？

「浦」…はるばる遠いところから流れてきた潮が大崎の浦、つまり湾内で波の音を奏でる。

「調べは強く 音高く」…波の音は速く遅く、激しく優しく、大きく小さく。多様な変化を見せながら。

「時満ち来たり 教えなむ」…大崎の波が奏でる調べは多くの経験を積んで知恵を持っている。幼年の君たちに、今こそこれから生きる上での知恵や学ぶことの喜びを授けるときだ。

（解説：馬場）